様式第３号

平成 30 年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	40	学 校 名	静岡県立科学技術高等学校	校 長 名	遠藤　克則

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	**日常の学習習慣を定着させる。**	・授業に主体的に取り組んでいると答える生徒80%以上 ・授業の内容がよく分かると回答する生徒80%以上	【79.2%】ほぼ達成できた。 【80.8%】達成できた。	A	教員の授業に対する取組み評価に比べ、生徒自身の評価がやや低い。新学習指導要領にもあるように、「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、生徒が「どのように学ぶか」に焦点を当てた更なる授業改善が必要である。
		・１日の学習時間が10時間達成70%以上	【57.6%】目標達成はできず、昨年と比較しても若干低かった。	B	授業時間と放課後の活動の相互作用により、充実した学校生活を送るための意識高揚を図る手段を見出す必要がある。
		・教養力テストの実施15回以上	教養力テストの実施20回	A	予定どおり実施したが、職員の業務負担になっているとの声もあり、実施意義を維持した上で実施方法を検討する。
		・貸し出し冊数の増加 ・図書館来館者数延べ8,000人以上	【2,284 冊】 ・貸し出し冊数は１月 15 日現在で､昨年の同時期の貸し出し冊数（2,035 冊）よりも増加している。 【8,669 人】 ・図書館来館者数は１月 15 日現在で、当初の目標を達成した。	A	７月初旬に「私の一冊」を発行し、その中で紹介された本を展示することで、生徒の読書活動を促した。図書館ＮＥＷＳ、新着図書紹介を定期的に発行。文化祭では図書委員会主催のブックトークを初めて行ない、図書館の情報発信に努めた。小論文対策コーナーの書籍も昨年より充実させ、生徒の進路実現に役立てた。図書課員が製作した回転式書棚を入口付近に置き、話題の新書等を配架したことで貸し出し数が増えた。読書感想文コンクールでは、１名の生徒が県の選考で入賞を果たした。 放課後の開館時間延長は、本年度も週２日のみ事務補助員に変形労働時間制をとってもらう形で実施したが、生徒が利用する機会を増やすためにも、拡大の方向で検討していきたい。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	個々の生徒のニーズに対応した進路指導体制を確立する。	・自分の将来に対する夢や希望を持っていると答える生徒70%以上	【１年生】46.7% 【２年生】57.7% 【３年生】74.2%	B	「どちらともいえない」と答えた生徒が、１年生（40.4%）・２年生（35.1%）・３年生（20.7%）いることから、夢や希望をもてるよう残りの期間で指導していきたい。
		・信頼できる先生がいると答える生徒80%以上	【１年生】57.5% 【２年生】67.9% 【３年生】75.9%	B	科学技術高校に進学して良かった答える生徒は 72.3%であることと、学年が上がっていく毎に数値が上がっているので、３年間を見通した指導体制を堅持することで、達成していくと捉えたい。
		・国公立大学合格者60人以上	国公立大学【53人】 高専・短大【３人】 平成31年1月21日現在	A	学年部や教科による丁寧な指導、継続的な進学補講の実施が成果に繋がった。しかし、教員の業務量が増えていくなかで、現在のような進学指導体制を如何に維持していくかが課題である。
		・就職内定率100%	就職内定率【100%】 平成31年1月21日現在	A	過去最高の求人数を頂くことができ、順調に進めることができた。しかし、以前からお付き合いのあった地域の中小企業を希望する生徒が少なくなってしまったように感じる。
	部活動を効率的に実施する。	・部活動に参加している生徒80%以上 ・学校が楽しいと答える生徒90%以上	【73.8%】 部活終了後は早めの帰宅を心がけている生徒は77.6%であった。 【61.3%】	B	全体的には部活動の加入率も高く、各部とも限られた時間で活動を工夫し、全国大会、東海大会出場をはじめ県大会入賞等の成果を揚げている。授業の集中力や家庭学習の徹底により、有効な時間の使い方が身につけば、部活動に対してより積極的な取組や学校を楽しいと感じる生徒が増えると思われる。
イ	**探究的な教育活動を推進する。**	・大学等と連携し、全学科で実施	２/３以上の学科において大学等と連携し探求的な活動を実施することができた。主な連携先としては、静岡大学・東海大学・ふじのくに地球環境史ミュージアム・国土交通省等	A	熟練技能士による講習会や資材購入の支援を継続したい。課題としては教員主導ではなく生徒主導としたい。生徒が希望する研究内容に応じて、必要に応じて外部連携を進めていく。実習及び課題研究で外部との連携を通して学習を深化することができた。 課題研究の基礎実験（物理）で人工衛星の電波を受信する実験講座を大学の先生と連携して実施した。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	専門分野の能力を向上させる。	・全国大会出場、全国規模のコンクール等の入賞	【機械工学】 全国高校生コマ対戦刈谷場所と第 3 回衛星探査機模型コンテストに参加。若年者ものづくり競技大会 CAD 部門参加。東海ものづくりコンテスト旋盤部門参加。愛知県高校生溶接競技大会参加。第７回静岡県ものづくり競技大会旋盤部門優勝・溶接部門優勝・５位入賞。 【ﾛﾎﾞｯﾄ工学】 県高校生ロボット競技大会で自律制御ロボット部門２チーム入賞。ものづくりコンテストプレ東海大会シーケンス制御部門３位。「ロボットアイデアコンテスト」関東経済産業局長賞。 【電子工学】 ジャパンマイコンカーラリー2019 全国大会出場 夏季全国電子工業教育研究会で生徒研究発表。 【情報ｼｽﾃﾑ】U18　IT 夢コンテスト 2018 において、優秀賞(神奈川新聞社賞)・優良賞・学校賞を受賞。第７回静岡県ものづくり競技大会ＩＴネットワーク部門優勝・６位入賞。 【建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ】 東海ものづくりコンテスト、各種設計競技、論文等の対外競技で、50 以上の入賞。第７回静岡県ものづくり競技大会木材加工部門優勝・準優勝。 【都市基盤工学】 東海ものづくりコンテスト測量競技大会出場。第７回静岡県ものづくり競技大会測量部門優勝。 【物質工学】東海ものづくりコンテスト化学分析部門に出場。第７回静岡県ものづくり競技大会化学分析部門準優勝。 【理工】自然科学部が第 42 回高校総合文化祭、自然科学部門に出場。	A	【機械工学】 16 人の生徒が参加。・専門校と高校生が混合する競技カテゴリーに参加。 【ﾛﾎﾞｯﾄ工学】 生徒独自の発想からロボットを製作し、創造性、問題解決能力を養うことができた。 【電子工学】 3D プリンターで作成したタイヤを装着して、10 年連続の出場を果たした。電子工業教育研究会では、夏休み準備を進め、多くの方に作品を紹介することができた。 【情報ｼｽﾃﾑ】 生徒の意識を高めながら、継続して指導して行きたい。 【建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ】建築デザイン科の授業を発展させ、建築研究部の活動を含め各教員の指導により大きな成果を残した。継続することが課題。 【都市基盤工学】９年連続出場を果たした。 【物質工学】東海大会では惜しくも入賞を逃がし、全国大会出場は叶わなかった。 【理工】物理優秀賞を受賞。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	専門分野の能力を向上させる。	・受験者数及び合格者数の増加	全ての学科において高度資格への積極的な取組が見られた。受験者数の増減は多少あるものの高い合格率を維持できた。 【機械工学】高度資格の受験者延べ237人→合格者延べ85人 【電気工学】第三種電気主任技術者受験者（受験者12人→合格者０人） 第一種電気工事士受験者（受験者33人→筆記合格19人、技能合格17人） 【ﾛﾎﾞｯﾄ工学】第２種電気工事士（受験者30人→合格者12人）40% 技能検定３級シーケンス制御（受験者16人→合格者？人）（3/15発表） 高度な資格受験者が学科の40%以上 【電子工学】DD 三種（受験者 40 人→合格者 35 人）　合格率は（昨年度 97%→88%） 【情報ｼｽﾃﾑ】DD 三種（受験者 40 人→合格者 36 人）合格率 90% 【建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ】２級建築施工管理技士（受験者９人→合格者３人） 大工技能士３級（受験者３人→合格者３人）　（例年並み） 【都市基盤工学】 ２級土木施工管理技術（受験者39人→合格者35人）合格率90%（昨年度75%） ２級造園施工管理技術（受験者10人→合格者４人）合格率40%（初受検） 測量試補（受験者18人→合格者１人）合格率５% 【物質工学】乙種（１～６類）（受験者 148 人→合格者 51 人） 甲種（受験者 11 人→合格者１人）　１月 31 日現在の暫定結果 【理工】英検準２級（受験者 42 人→合格者 30 人） ２級（受験者 42 人→合格者６人）	A	技能検定では、静岡県職業能力開発協会の協力のもと、ものづくりマイスター派遣事業を活用して、高度な技術の指導を受けた。 朝補習を昨年に引き続き実施し、参加者は理解を深めた。課題は電験 3 種を科目合格すること。 他学科との連携で電気工事講習を実施。指導できる教員が減り、補習担当時間が多くなった。 教員数の確保、朝、放課後等勤務時間外の指導となるので、教員のボランティアに頼っている。 外部機関との連携を堅持し、更に合格者増を目指す。 新たな資格へチャレンジし、40%の合格率を達成することができた。 今後、合格発表の資格もあり合格者の確定は２月末になる。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ	**グローバル化への対応と国際理解教育を推進する。**	・充実した海外研修ができたと答える生徒90%以上	海外研修参加者の100%が「充実した研修ができた」と実感した。	A	日系企業訪問や学校交流、ホームステイなど充実した内容の研修が実施できた。事前研修と事後研修を丁寧に行い、生徒は研修を深めた。新年度に向け、新たな研修の企画を充実させる。
		・英語検定等の受験者数の増加	英検の２級、準２級の受検者は概ね昨年並みであったが、３級の受検者が増加した。	B	来年度の新システムの検定導入に向けて、準２級の受検を先送りする様子が伺えた一方、手始めとして３級を受検した生徒は増加した。来年度から始まる新システムの検定に向けても、情報収集に努め、積極的な受検を呼びかけたい。
		・海外姉妹校との交流の実施	昨年度姉妹締結をした国立羅東高級工業職業学校生 32 人と本校で交流事業を実施した。3時間半の交流の中で両校の生徒がペアーを作り交流した。	A	生徒会が中心となって交流会の企画をたて、生徒主体で交流することができた。クラス交流では、各クラスが学科の特色を活かした企画で、交流することができた。
		・海外修学旅行について研究する。	学年主任者会で継続して検討し、複数の候補地を挙げることができた。	B	複数の候補地を挙げることができたが、それぞれ一長一短があり、1箇所に絞ることができなかった。国内の修学旅行を実施した感想として、まだまだ国内修学旅行でも、生徒に見させたい場所は多くあると感じた。早急に海外修学旅行に路線変更をする必要性はないので、じっくりと検討する必要のある案件である。海外修学旅行についての研究を継続する。
	持続可能な社会の一員としての素養を育成する。	・挨拶がしっかりとできていると答える生徒95%以上 ・身だしなみがしっかりできていると答える生徒95%以上	【93.0%】・ほぼ達成できた。 【94.5%】・ほぼ達成できた。	B	昇降指導、校内巡視、頭髪服装検査を計画通りに実施し、基本的な生活習慣の確立・規範意識の醸成に学校全体で取組んだ。大きな事故もなく学校全体が落ち着いた状況であった。学年間の連携・情報交換を継続し、生徒会を活用して生徒自らが実践する取組を継続していく。
		・インターンシップ等に参加した生徒の満足度80%以上	【98.0%】 生徒の満足度が大変高かった。	A	商工会議所やNPO法人教育ネットと連携して実施内容を大幅に改善したことで、効率化と教育効果の向上が実現した。次年度以降の予算立てが課題である。
		・３Ｓに取り組んでいると答える生徒90%以上	【82.8%】 僅かではあるが昨年より増加した。	B	６月に啓発ポスターを清掃箇所全てに掲示した。今後は集会を利用して生徒への啓蒙を進めたい。
		・交通ルールの遵守に心掛けていると答える生徒95%以上	【90.6%】 昨年より減少した。	B	交通街頭指導は計画通りに実施できた。 交通事故件数は－５件　　（前年度比） 交通指導カード枚数は－78 枚　（前年度比）

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	**カリキュラム・マネジメントを推進する。**	・移行措置等を踏まえ、教育課程を変更する。	新学習指導要領に関する情報収集等が、２学期末で一段落したため、大きな作業はできなかった。現行の教育課程は、来年度に向けて地歴･公民、工業科の教育課程の変更を実施した。	B	来年度、新学習指導要領に対しての教育課程等の検討を本格的に始動する必要がある。 また、新学習指導要領の方針を踏まえながら、現行の教育課程の改善を推進する必要がある。
	特別支援教育体制を確立する。	・教育相談だよりを月１回以上発行	相談室だよりを定期的に発行することができた。（１月初旬で９回）	A	ＨＰに掲載することで、相談室の予定やストレス解消方法等の情報を生徒及び保護者に広く発信することができた。
		・１年生全員を対象にしたカウンセリングを実施	1年生全員を対象に１分間カウンセリングを実施した。学年と連携しながら必要な生徒に支援ができた。	A	1分間カウンセリングで得た情報をその後の支援に役立てることができた。また、学年との連携により支援が必要な生徒の把握等、相談体制は整い機能している。
	教職員の資質・能力の向上を支援する。	･研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた教員90％以上	研修内容に関する満足度は高かったが、授業改善や学校運営に役立てた、今後実践する予定は合わせて 60％程度であった。	B	研修内容に関しては充分に理解し、満足度は高いが、学校現場での実践については低調であった。研修参加者の自己評価が厳しいことも原因の１つとして考えられる。
		・日常的に授業でICT機器を活用した教員60％以上	プロジェクタとアクセスポイントを全教室に設置し、利便性が向上した。ICT 関連の要望に迅速に対応できた。日常的に ICT を活用する教員は30％程度だと感じている。	B	ICT 機器を活用する教員はまだまだ少ないと感じている。AppleTV 等の貸し出し方法の検討やマニュアルの整備等を行い、ICT 機器に苦手意識のある教員も利用したいと思う環境づくりが必要である。
	教職員のメンタルヘルスの増進及びコンプライアンスの徹底を図る。	･メンタルヘルス及びコンプライアンスに関する研修の実施１回以上	メンタルヘルスと交通事故に係る研修を一回ずつ実施した。また、県教委が作成するコンプライアンス通信の発行に合わせて、教職員への注意喚起を随時行った。	A	教職員のメンタルヘルスとコンプライアンスの徹底は、常に意識し継続していくことが重要である。
	学校教育活動に関する広報を充実する。	･学校ホームページを週４回以上更新	ＨＰを積極的に更新した。 今年度更新回数【123回】 週平均【3.3回】	B	各学科の協力を得て、様々な行事を写真入りで定期的に更新することが出来た。ＨＰの更新が職員室各机上のパソコンから出来なくなり、更新に思わぬ労力を要した。情報管理課と連携して簡単に更新できるようにしたい。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	学校教育活動に関する広報を充実する。	・学校外のイベントを各学科で２回以上実施	半数以上の学科で２回以上実施した。 主な実施内容は ・実学チャレンジフェスタへの参加 ・市内中学校での出前授業 ・県武道館サンクスデー産業フェア参加 ・県水泳場産業フェア ・静岡科学館る・く・る「あつまれ　ふし・ぎひろば」参加 ・中学生を対象とした科学教室を９月と 11 月に実施 ・「ものづくり・マイコンカー教室」を実施。 ・体験入学・オープンスクールで大量の展示と丁寧な対応	B	中学生だけではなく、小学生でも楽しめる展示物を充実させ、広報活動を図ることが課題。 外部へのイベントに参加することにより、一般の方とコミュニケーションをとり、自分たちの研究の内容を伝えるよい機会となった。 中学生やその保護者の方々に、直接取り組みを評価してもらい好印象の声を多く頂いた。 地域や地元の小中学校との交流を図り、学科の PR につとめる。 来年度は、各種イベント等に積極的に参加する体制を整える
	校務の円滑、かつ適切な実施を推進する。	・全員の職員が校務で共有サーバーを使用する。	年度初めに共有サーバーを更新したが、問題なく運用できている。	A	ＮＥＳ端末更新時に円滑な切り替えをしたい。迅速な障害復旧できる体制を整える。他校でＮＡＳのトラブルが増えているため定期的なバックアップの確認体制の確立と障害対応マニュアルを作成したい。
		・点検の日を設け、ＰＦＩ担当者との点検月１回以上実施	月１回以上点検を行い、危険個所や不良個所は速やかに対応することができた。	B	点検及び修繕は速やかに対応できた。今後も PFI 事業者と連携を密にして、危険個所の解消に努めていく。
		・コスト意識を醸成し、消費電力量を５％以上削減	「消費電力量５％以上削減」については、猛暑等により達成することができなかった。 （前年同月(4～12月)比　101％）	C	エアコンの使用電力量が大きな比率を占めるが、生徒の体調管理を十分考慮しつつも、授業空き時間のスイッチ切り忘れ防止について、呼びかけの強化や省エネ型の電化製品への交換に取り組んでいく。